

# 若竹

~WAKATAKE~

第 41 号

2011/10/1 発行

ある学者によると青春時代は「疾風怒濤」という単語に例えられるらしい。青春＝疾風怒濤の勢いで実施された白陵祭も悲喜こもごもありつつも無事終了。各々の胸の内に何らかの思い出はできたと思う。嵐のような勢いの後は、じっくり腰を落ち着けての深慮の秋だ。季節も後半。心を落ち着けて、様々な事に取り組んでいこう。



白陵中学生生活を豊かにする5つの提言(中3英語:前中先生)

## 「汝の一生は不断の実行であれ」

活動は時を積極的に短くし、安逸は時を耐えがたくします。無駄に時間を費やしてただだとすくすくではなく、今やらねばならないと考えること(勉強やクラブ活動など)をやり始めることが大事ですね。気乗りしないことでもやり始めると、時を忘れて頑張れるものですよ。

## 「旅行するのはつくだめではなくて旅行するためである」

自分なりにやらねばならないことをやれるようになったら、今度はそれを計画的にできるように心がけるようにしたいですね。成績が伸びるとか部活動での技術が伸びるということは大事なことです。それ以上にそこに至るまでの諸君の努力とか工夫などの過程がその人のこれからの財産になるものだと思います。自分に厳しく、けじめのついた生活を送ってください。

## 「時間にルーサーなものは人からの信頼をなくす」

前任校に比べて白陵は遅刻者が少ないのに感心させられます。社会集団の中で行動する人間として当然のことと考えられる「時間を守る」ということはとても大事なことです。時間に真摯な態度で望んでいる人こそ、他からの信頼を得ることができ、自らの生活を豊かにできる人だと考えています。

## 「他を思いやる心はその人の人生を豊かにする」

自分の子供を虐待死させるだとか、安易に殺人という罪を犯すなど物騒なニュースが相次いでいます。少し前には未成年の犯罪や成人式での若者の理不尽な行動が新聞紙上をにぎわせました。諸君はこのような状況をどう感じているのでしょうか。諸君には相手を思いやる心、相手を信頼できる心を持ち、精神的に豊かな人生を送ってほしいと思います。

## 「自ら学ぼうとする態度があってこそ学習は成り立つ」

与えられたものをいかに把握し、自分のものにしていくかが学習であると考えていた時期があったのではないのでしょうか。学ぶことは諸君が自ら考えることが要求されると考えます。これからは学ぶこと、覚えることが多くなっていくので、諸君に学びたいという気持ちがなくては太刀打ちできなくなるし、力は身につかないのです。「学びたい」という気持ちを育んでください。

## 中 1 : 私たちの担任紹介

### 中 1 - 1 担任 : 西先生 (国語)

誕生日……三月三十一日  
好きな食べ物……辛いもの  
趣味……芝居をみること  
年齢……四十九才

ある人が学級日誌にこう書いています。  
「バブル期高三でモテモテだっただろう」←バブルは崩壊したのでしょうか。

事実かどうかはさておき、西先生は素晴らしく優しいです。運動会で三位だったのに、学級対抗リレーで一位だったからという理由で全員にアイスをおごってくれました。……ちなみに、一位だったらハーゲンダッツだったそうです。

恰好よくて(?) 素敵な先生ですが、一つ困ったことは、背が高すぎて、近くに立って話そうとすると見上げなければいけないので、首が痛くなるということです。



### 中 1 - 2 担任 : 上岡先生 (数学)



上岡先生は、数学Bをお教えくださっています。はっきり言って、イケメンです。上岡先生の授業は、とても面白く、わかりやすいので、毎回、Bの授業を楽しみにしています。上岡先生は、時々、意地悪になることがあります。みんなが引かかるような問題を出します。僕は、その引っ掛けに引っかかると、とても悔しいですが、上岡先生の意図がわかると、思わず、「ニヤッ」と、してしまいます。また、上岡先生の面白いところは、もし、誰かが、上岡先生の質問に、答えられなかったら、

「じゃあ、〇〇後ろ立っとき」と、うれしそうな顔をして、言うということです。ちなみに、僕は一度も当たった事はありません。これからも、当てないでください! (笑) 上岡先生は、怒ったときは、めちゃくちゃ怖いです。しかし、良い事をする、と、すごく、ほめてくださいます。良かったときは、すごくほめる、悪かったときは、めちゃくちゃ怒る。上岡先生は、そういうような、とても生徒思いな、先生です。

### 中1-3 担任：岡本先生（社会）

私たちの担任の先生に対するイメージは、どこのクラスの人も、みんな、口をそろえて、優しすぎる、性格がとても良い、気が長く温和であると言うほど、とにかく性格が良いのです。その、先生こそ中一年三組の担任、岡本先生なのです。もちろん、ただ優しいだけではありません。たとえば、岡本先生が教えてくださる歴史の授業には見所がいくつかあります。まず、先生の独特の「しゃべり」です。若干、関東弁が混ざった関西弁が聞けたり、運がいい時には、先生の裏声を聞けたりもします。次に、授業中に黒板に書く絵がとても上手で、私は、その絵を一度見ると、頭から離れません。他にも、岡本先生が勝手につくった、いわゆる岡本説というものが存在したりします。授業中以外にも、たまに、先生は、良心からか、冗談をおっしゃって、かえって変な空気になるのですが、頻繁にその空気に直面することが無いのもありがたいことです。

いつも明るく、活発すぎると言ってもいい一年三組は、絶えることのない岡本先生の笑顔と冗談も、その、一つの要因なのかもしれません。



### 中1-4 担任：浅田先生（社会）



「初心、忘るべからず」それは一番浅田先生にぴったり合う言葉だと思います。いつも真剣で何事にも全力で取り組んでおられます。（がんばりすぎて、運動会の学年演技の『白陵デリバリーサービス』では最後の最後にこけてしまいました……）いつもがんばりすぎているからかもしれないけれど歩き方と話し方がすごく変です。（歩き方に関しては先生は競歩のスペシャリストだという人もいます（笑））

また、外見からはどうしても新米教師に見えるけど生徒のことをよく分かっておられ、ホームルームをできるかぎり早く終わらせてくれたり、球技大会や運動会では終わったらジュースやアイスをおごってくださいます。（次もよろしくお願いします！）地理の授業では時々受けるギャグを交えながら楽しくかつ、わかりやすく教えてくれます。そんな浅田先生のことを、僕たち一年四組のメンバーは全員信頼しています。これからもよろしくお願いします。

このコーナーは、次の生徒委員会のメンバーが感想を寄せてくれました。

39号……中2の担任紹介：中村香織・笹久保茉奈・本林葉名・日野亮子

40号……中3の担任紹介：三木あかり・渡邊 佑・正田浩一朗・小川慈人

41号……中1の担任紹介：清水麻未・野原弘暉・土田夏湖・伊藤扶桑

## 白陵生とともに学ぶ3



私にとって「白陵」と言う学校はいくつもの顔を持っている。いわゆる低成長期という70年代に中学高校生活を過ごした「白陵」、同窓会の幹事を務めながら外から眺めた「白陵」、自らが教員として勤めたもう一つの「白陵」、そのもう一つの「白陵」から眺めた「白陵」、そしていま新たに教員として赴任した「白陵」、すべて「白陵」でありながら、どれも違った顔を持っている。

それぞれ「白陵」で多くの生徒が懸命に自分たちの「白陵」を創っている。それはとても大切に、素晴らしいことだと思う。ただそういった流れの中で、忘れてはいけないこと、形は変わっても、伝えていかなければならないことがあるのではないかと。自分が生徒であった時代、園長から「旧制中学・高校」「パブリックスクール」の話をよく拝聴した。また岡山白陵高校設立方針には「この学校は範を旧制の良い所にとり、新しい形の英才教育の場として英国のイートンコレッジやウィンチェスターに当たるものを創らねばならない。」「我々はオックスフォード、ケンブリッジ、プリンストン、ハーバード或いはフランスのエコール・ノルマルを出た連中に国際的に匹敵するだけの学識や品性を持った人間を養成しなくてはならぬ。」と園長の想いが熱く語られていた。そういう「想い」で作られた学園であることは知っておいて欲しい。フランスのバカロレアという大学入試資格統一国家試験では全員必修の哲学で「言語は思考を裏切るか?」「不可能を望むことは非合理か?」という問いに4時間かけて取り組む。バカロレアを万能とは思わないが、こうした経験を経てきた学生たちと競うことが「白陵生」の近い未来に待っている。こうした現実を踏まえて自分たちの「白陵」を創っていくことが大切なのではないだろうか。私もその手助けを続けていけたらと思う。(中3公民:水田)



昨年、白陵中学校、白陵高等学校で働くことが決まり、初めて中学生の授業をすることになりました。中学生の家庭科の授業では、自分の意見をしっかり発表でき、活発なクラスほど調理実習はスムーズです。リーダーシップを発揮したり、自分から気付いて動ける、それは自分の意見をはっきり持って行動に移すことができるからです。たまにクラスで白熱し、意見が飛び交い、ついには脱線していることもありますが、しっかり授業の内容は頭に入っているのには驚きます。白陵高等学校での授業では、生徒自らがノートに板書を書き写し、調理実習ではまずプリントに目を通す姿があります。白陵での生活から授業の受け方を学んできた姿に感心しました。そんな高校生も、4年前は中学1年生。きっとみんなと同じように、分からないことや初めてのことに悩んだり、笑ったり、怒ったり、喜んだりして毎日を過ごしてきたと思います。私が中学・高等学校の思い出は?と聞かれると、勉強、吹奏楽、学校行事と答えます。今でも、一緒に部活動を頑張ってきた友だちや一緒に受験勉強を頑張った友だちと会っては、話が弾みます。みんなも勉強・部活動・学校行事など、『今』を大切に、友だちと充実した毎日を送って下さい。そして白陵、先生方、友だち、みんなで毎日一歩ずつ進んでいきましょう。(家庭科 西川)



音楽室の窓から見える木々の四季の変化を楽しんでいます。私が音楽を志してから半世紀になります。ずいぶん長い時が流れました。果してどれ程の実をもたらしてくれたのやら、と思うことがあります。日々、音楽に立ち向かう努力をしてきたつもりが、どの深さに「日暮れて道遠し」という思いです。しかしその間で確信した事もあります。それは音楽をするということは「協調性」と「責任感」を養わなければい

けないということ。他者の発する「音」を聴き、その「音」に協調するという事。そのためには自己の技術を磨く責任があります。これらなくして音楽は成立しません。この形は社会に於いても適応されるものです。他者の意見を聞き、理解し、そして自己の意見を発する。そこに調和を見出す。すなわち、音楽における「ハーモニー」です。美しいハーモニーはその結実なのです。中学3年間のリコーダーのアンサンブルは私の授業の中心です。良き合奏を創り出すことは、良き人間を創ることに一役買っているのではと思います。少し我田引水ですね。

先日広島に行きました。広島の友人がこう言いました。「広島には誇れる文化が3つある」と言うのです。それは「広島カープとサンフレッチェ、それに広島交響楽団だ」と、何とバランスの良い文化でしょう。感動しました。

音楽室の窓から見える木々もいよいよ色づき、実をつけ、落葉し、次の季節を迎えます。そして又1つ年輪をつけ加えます。(音楽：黒田)



「美しい花がある。花の美しさというようなものは無い。」小林秀雄の言葉を書き写してみた。味わい深い言葉だ。

大内先生から「若竹」に原稿を書いてくれないかと仰せつかり、美術について書くことを考えているのだが、言葉が見つからない。

何故か。どうも私の意識の根底には言葉への不信があるみたいだ。言葉はとても表面的で時に本当に思っている事とは違う事を使いこなさねばならない場面もある。それがタテマエというものだ。と同じくらい言葉の恐ろしさも実感する。発した言葉に自らが縛られてしまう。だから美術について語る事がはばかれる。どこかで聞いたような美辞麗句を書き連ね「花の美しさ」について語ってしまう恐れがある。「講釈師見て来た様な事を言い。」喋りが過ぎると美術の講師が講釈師になってしまう。鶴見俊輔氏が「柳宗悦」について語った中で、人間は二タイプに分かれていて、一つは「卒業するタイプ」でたいていの成績優秀者はこっち。学校がまさしくこのタイプを実践している場。そしてもう一つが「卒業しないタイプ」らしい。柳という人は珍しく学業優秀でありながら「卒業しないタイプ」だったみたいだと述べている。

全くもっておつむの聡くない私が美術講師として糊口をしのぐ事が出来ているのも、愚図だけれども自分はどうも「卒業しないタイプ」であったからだと思っている。また仕事自分が自分を作っていくという見方が出来る。確かに彫刻を選んだのは私だが、続けていく内に徐々に彫刻によって私が作られているという気持ちもある。「仕事は段取りが八分目」「道具を大切にしない者に腕のいい者は無し」昔から職人さん達が言ってきた言葉だ。彫刻も同じでその時にやるべき事をやっていないとツケが後で回ってきて、余計に仕事が見えなくなる。そして刃物を自分の身体の一部のように使いこなせないとこなれたモノになら

ない。只職人仕事と違うのは手際よさだけが前に立つとどうも作品がいやらしくなる。技は見せるものじゃ無い。かと言って稚気を装うのはもつといやらしい。最近思うのは人に「上手いなあ」と思わせるのは本当の「上手さ」だろうかという事だ。

ひどく難儀な彫刻に応えていく為に寡黙に腕を磨いていい仕事をしていきたい。それが今の私の本願だ。さあ言葉の恐ろしさを実践せねば。

(美術：保田)

※鶴見俊輔…1922年～ハーバード大学卒業、評論家

柳 宗悦…1889年～1961年 東京帝国大学卒業、  
哲学者 民芸運動の創始者



## 第48回運動会

	1位		2位		3位											
	クラス	氏名	クラス	氏名	クラス	氏名										
800m男	3-4	露口慶一	3-4	甘中亮佑	3-3	清水 拓										
1年学級対抗	1組(F) 松岡・長谷川・中村・東・千頭・藤本・角・関口															
2年学級対抗	3組(H) 井上雅・小林・清水・神垣・角田・中川・三好・井上貴															
3年学級対抗	3組(H) 山田・平野・大川・平山・早見・中野・井鍋・田村															
皆でジャンプ	団	回														
1年100m男	1-4	中野篤弥	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">1位</th> </tr> <tr> <th>クラス</th> <th>氏名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年100m女</td> <td>1-3 坂元碧真</td> </tr> <tr> <td>2年100m女</td> <td>2-1 松島由依</td> </tr> <tr> <td>3年100m女</td> <td>3-1 原田和佳</td> </tr> </tbody> </table>				1位		クラス	氏名	1年100m女	1-3 坂元碧真	2年100m女	2-1 松島由依	3年100m女	3-1 原田和佳
1位																
クラス	氏名															
1年100m女	1-3 坂元碧真															
2年100m女	2-1 松島由依															
3年100m女	3-1 原田和佳															
2年100m男	2-4	井上優輝														
3年100m男	3-1	高月紘樹														
1年200m男	1-2	福川千明														
2年200m男	2-1	松田恒輝														
3年200m男	3-4	溝尾太佑														
600mリレー女	3組(H)	3古澤・2上田・1櫻井・1坂元・2本林・3徳田														
棒倒し	4組(I)															
ルウエーリレー男	4組(I)	3魚住・1河合・2井上・2加納・1中野・2木村・1三上・3荒木・3尾上														
デコレーションの部	3組(H)	150 点	4組(I)	100 点												
競技の部	4組(I)	942 点	3組(H)	889 点												
総合成績	4組(I)	1042 点	3組(H)	1039 点												

F団（1組）団長：肥越 仁



台風も過ぎ、ますます秋へ近付いております。みなさんいかがお過ごしですか？

今回団長をさせていただきました。現在高一の元団長に「おまえ団長やれよ」と言われたので、やってみようと思いやってみました。改めて今回「人をまとめる難しさ」と「先頭に立つことの緊張」を感じ取ることができ、いい経験だったと思います。でもこの経験の中で最も学ぶことができたのが、「感謝」です。

「団長は目立つからもっと手を伸ばせ」と助言をしてくださった三輪田先生、「もう少し早く進め」と後ろから言ってくれた旗手の三人、「声聞こえへんからもっと大きい声出して」と要望を言ってくれたもっと後ろの女子の皆さん。「全員挑戦に出ろ」と命令するといやな顔一つもせず(?)したがってくれた中一、二、三の男子と一部の女子。この場を借りて、感謝の辞を述べたいと思います。「ありがとうございました。」ぜひ、現中二の皆さん、中一の皆さん、「挑戦」をしてください。

G団（2組）団長：大崎 大輝

ハハハッ……ハッ……ハハハハハ……  
今年の……運動会……は楽しかったな……ハハッ……（泣）

惜しくも4位になったG団です。まあでもG団は行進1位とか腕立て3位とか努力してとれるところはきっちりとしたからな。。G団の“G”は“ガンバったのGです”。



H団（3組）団長：平野湧也



H団の団長です。(´・ω・`)入場行進の前に団をシラケさせたことをお許しください・・・\_|▮|○il||li とにかく頼りないという言葉が当てはまったと思うのですが、付いてきてくれた人もそうでない人もとにかくこの団に関わってくれた人に感謝します。ありがとう!(´▽`)入場行進とくーる棒を終わった時点でトップと4倍近く差をつけられて最下位を突っ走っていたわけで「もうどうにでもなれ～∩(´・ω・`)つー\*`\*:..:...:\*°°\*」

って感じだったんですが、昼食終わった段階でトップに立ってたっていう奇跡的な巻き返し！その時は完全に優勝したと思ったんですけどね～勝利の女神は微笑みませんでし

た・・・3点差・・・なんかめっちゃ悔しい！ですよね？(皿)腕立てですよ？一人ですよ！？たった一人ですよ？一人の力って重要ですよ・・・アイス食ってた中3のF君わかったか？

○(#° 㐓°)=( #)≡○)㐓`・。

### I 団 (4 組) 団長：藤本款大

今思うと団長になってもいいことはあまりなかったような気がする。当然ほかの人たちより早く集合して整



列させないといけないし、大声を出しすぎて練習初日から声が枯れてしまったし、いろんな人から「団長」と冷やかされるし、松島先生には怒られるし、松本先生にもちよっと注意されるし…。しかしこのような困難やプレッシャー、恐怖に打ち勝ったからこそ優勝した喜びは誰よりも大きいと思う。そして優勝した後の松島先生の笑顔を見ると少し報われた気がしました。

### 初めての白陵運動会



今年僕は、初めて白陵の運動会に参加しました。今からは、その運動会の感想について書きます。

白陵の運動会は、行進に始まり行進で終わります。その行進の中で僕は、何を間違ったのか、旗手を務めることになりました。旗手といっても、ただ旗を持つだけではなく行進の先頭に立ち、クラスを導かなければいけません。さらにこの行進も得点化されると聞いて、とても緊張しました。しかし、結果的に上位を取れたのでうれしかったです。

今回僕が参加した競技の中で、一番記憶に残っているのは「棒倒し」です。最初は「守る側」につき、棒を守りきりましたが二回目に棒が折れるというアクシデントがあって結局負けてしまいました。クラス皆が一本の棒を目指し、一致団結感あふれる競技でした。競技部門の結果は4位でしたが来年は、すべての部門で一位を取りたいと思いました。

(1-2 稲垣大翔)

## 第46回文化祭

### 中3ディベート

パイオニアとして最初は手探りで始めたディベート。どうなるものかと、とても不安でした。クラス代表としての務めを全うしないと、という気持ちで資料を読み漁り、原稿を推敲しました。そんな努力と、S先生などの先生方のお力添えもあり、本番ではうまくいきました。Mくんが初めに言ったように自分たちの欠陥を見つけることもできました。また、これは個人的なことですが、とてもうれしいことがありました。ディベートを見に来てくれていた祖母に誉められたのです。お世話になっている祖母に恩返しができたように思います。このようにディベートで多くのことを学びました。パイオニアの精神を受け継ぎ他の学年にもディベートに挑戦してほしいです。(3-4 玉田菜那)



### 中3バザー



入学以来一度もバザーに行ったことがない僕ですが、バザー委員のレジ係りとして仕事をしました。正直な所、最初はあまりやる気がなかったのですが、たくさんのお客さんが来ていただいたので、いつの間にか仕事に没頭していました。中でも印象に残っているのは、校長先生や教頭先生が結構真剣にバザーの商品をご覧になっていたことや値段が十円均一になったら急激に商品を買うようになったお客さんです。そしてお客さんからお礼を言われることの嬉しさを知ることができたことこそ、この文化祭を通して得られた収穫であったと思います。(3-4 甘中亮佑)

### 中2学年展示

私たちはキャンプ報告と震災の展示をしました。震災の展示のポスターを作っていた自分自身も、震災を様々な角度から見つめることができた。震災は、想像以上に甚大な被害を及ぼしてしまったことを知った。被災地の人々のために募金をすることしかできない自分に歯がゆさを覚えた。見に来ていただいた皆さんも、展示を見ることによって、震災に対する考え方が少しでも変わってくれればいいと思う。(2-4 山本隆裕・2-2 三島愛)



## 中2ステージ

今年は昨年比べて大きく成長したと思う。二曲のうち一曲は英語の歌だったが、心配だった発音もしっかりできたと思う。やはりこれも練習によるものだ。昨年のように、直前になってドタバタと練習を始めるのではなく、昨年の失敗を教訓にして早めに準備したので、しっかり歌えた。これだけ練習してきただけに、終わった後は達成感を感じた。今、一番気になるのは、英語の歌を歌った理由を達成できているかだ。僕は「歌が上手いね。」といわれるためだけに練習してきたのではない。東北に対する生徒や先生たちのメッセージを伝えるために一丸となり、歌った。今回の学年演技で、この思いを読み取ってもらえたなら、うれしいです。(2-1 岩田俊亮)



## 中1 学年展示



学年展示の政策のために、中一に設けられた時間は、1週間しかなかった。放課後の、一時間とちよびっとしかない貴重な部活時間を削って、縦108センチメートル、横81センチメートルの模造紙二枚に僕は字を書き写真をはった。全部で9時間の製作時間であった。

さて、一日の半分近くの間をかけて苦勞して製作した展示品の出来栄は、どうか。僕は、良いと思う。その理由を一つだけ述べよう。字が読みやすいことだ。模造紙の半分以上を占める文字が、大きく、きれいに、ときには色を変えて書かれていて読みやすい。多くの時間をかけたかいがあった、と僕は思う。(1-3 下山航輝)

## 中1 ステージ

中学1年生は、文化祭で「サウンド・オブ・ミュージック」のミュージカルをしました。私はキャストではありませんでしたが、キャストの人は毎日放課後に、一生懸命練習していました。また、歌は英語なので歌詞を覚えるのが難しかったです。合唱はクラス単位で練習し、合同練習を数回しました。

初めての文化祭で観客の数にビックリして、とても緊張しましたが、本番ではみんなで力を合わせて頑張りました。結果は大成功で、友達との絆が深まりました。記念棟から出た時に観客の方が、団結力がすばらしいと話されているのを聞き、とても嬉しく誇らしく思いました。来年は、もっともっと素晴らしい出し物にしたいです。(1-4 二川真由)

